



子どもたちはあそび見つけの名人！

先月のみみょうフェスティバルでは、子どもたちのアイデアやイメージした世界を親子で一緒に楽しんでいただきました。みみょうフェスティバルの後も、子どもたちのあそびはまだまだ続いています。

4歳児クラス“まねる”から始まるあそび

しろぐみさんが輪っか状の紙をたくさん作って遊んでいました。何ができるのかな？その様子をわくわくしながら見ていたきいぐみさんもあそびに加わります。

「しろぐみさんのあそびをやってみたい！」という声から、年長児のあそびを模倣して今度は自分たちで楽しみ始めます。輪っかを作りビニールテープでくっつけようと思いますが…なかなか難しく…。お友だちの手を借りながら一緒に輪っかを作ろうと奮闘する姿が見られました。



〔カラーセロファンを貼ってみると…〕



〔光のシアター〕

〔光って不思議だな！おもしろい！〕

しろぐみさんが始めたあそびをきっかけに、あそびがどんどん膨らんでいきました。フェスティバルで楽しんだ光のシアターもしろぐみさんから学んだあそびの一つです。“お兄ちゃんお姉ちゃんってすごいな！”“おもしろいことしてるな”という気持ちが憧れへとつながっています。“まねる”ことから始まるあそび、これからも見守っていきたいと思います。

新型コロナウイルスの影響と子どもの未来

朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。体調管理には充分ご注意ください。

さて、新型コロナウイルスの感染状況ですが、欧州では感染者が急増し、フランスやドイツなどで都市封鎖（ロックダウン）の再実施が決定されました。米国でも中西部を中心に感染拡大が続いています。日本においても、国内感染者は、ついに累計で10万人を超えました。10月に入ってからは、都市圏を中心にクラスター（感染者集団）が発生し、微増傾向が続いています。重傷者や死亡の割合が減ってきているのがせめてもの救いです。停滞している日本経済の再始動を図るために、「Go To トラベル」がスタートしましたが、新たな感染拡大につながらないか心配をしているところです。

そうしたなか、みみょうでは、「何もしない、やらない」ではなく「できることをしよう」という考えのもと、感染拡大に細心の注意を払いながら、できる限り通常通りの保育を実施してまいりました。また、行事についても、規模の縮小や内容の見直しを図るなど工夫をしながら実施しています。

9月の運動会は、当日は雨で開催できませんでした。翌週の学年ごと3回に分けたミニ運動会には、多くの保護者の皆さんが応援に駆けつけていただき、子どもたちのたくさんの笑顔のなか開催することができました。10月17日に開催した「東雲みみょうフェスティバル」も、感染拡大防止のために学年ごとに時間差でご来場いただきました。当日は、飲食の提供もなしということで、例年のような賑わいはありませんでしたが、それぞれのご家族の様子を見ておきますと、ゆったりとした空間と時間の中、親子が一緒になって展示物で遊んだり、作品づくりに挑戦したり、ほのぼのとした楽しい時間をお過ごしいただけたと思っています。また、12月5日には、生活発表会があります。運動会と同様に、年少は別日にし、年中、年長で時間差をつけての開催を予定しています。今回は室内ということもありますので、換気には十分注意してまいりたいと思いますが、どうしても人数制限を設けないとかなり密になることが予想されます。詳細については、またお知らせします。

本来、保育という営みは、集団生活のなかで他者に揉まれながら、友だちとの関わりや、多様な考え方が

あること、ルールがあること、我慢することなど、多くのことを学んでいきます。しかし、今年度はグループ他園との交流も、子どもたちが楽しみにしている中・高校生との交流や地域の高齢者との交流もできていません。また、大人がマスクを着用していることで感情を上手く読み取ることができにくいため意思疎通も困難になってきています。このような状況が長引くようであるならば、子どもたちへの影響は計り知れません。早く収束してほしいと念じるばかりです。

先日、今年5～7月の全国の妊娠届件数が、前年同期比で11.4%、2万6331件のマイナスという厚労省の発表がありました。コロナの影響で、雇用情勢や出産環境の悪化が影響していると考えます。全国の出生数は減少傾向が続き、2016年に初めて100万人を割りこみ、昨年は約86万5千人まで落ち込みました。今後も妊娠控えが続けば来年の出生数は70万人台となる可能性があります。雇用情勢悪化による家計への不安は、子育て家庭やこれから結婚して家庭を持つこととする若者にとっては、大変深刻な問題であり、子どもを持つことへの不安に直結します。そして、このまま少子化がさらにすすむようなことがあれば、明るい未来はありません。

政府は、少子対策の一環として、昨年10月にスタートした幼児教育・保育の無償化をはじめ、不妊治療支援や新婚世帯に60万円を上限に補助するなど、対策に本腰を入っていますが、限定的な効果しかないように思います。若い世代が結婚を、妊娠をためらわないようにするためには、「子育てしやすい社会」、さらには「子育てできる社会」にしなければならないと考えます。そのためには、ロシアが2人以上生んだ親には年収の2倍もの出産手当金を支給することで出生率を上げたように、思い切った子育て支援政策がなければ出生率は上がらないのかもしれない。

現在、コロナ禍にあるからこそ、様々なことの見直しが求められています。この子たちが生き生きと活躍できる明るい未来にし、子育てに希望がもて、子育てができる社会をつくるのが我々大人の責務です。そのためにはどうすればよいのか、一緒に考えていきましょう。

第二みみょう保育園 園長

子育て応援メッセージ

がまんがまん  
ゆっくり聞こうね  
子どもの言い分



自立へ向けて、懸命に自分を表現しようとしている子どもの主張。なのに押さえつけてしまいそうな私…。でも、ちょっとだけ深呼吸してみても、とっても大切な、大切な言い分ですよ。

「子育てルネッサンス運動」  
社団法人全国保育園連盟  
子育てメッセージ

どんぐりのいろいろ

どんぐりにはいろいろな種類があり、形も様々です。比治山にもたくさんどんぐりの木があるのでお出かけしてみたいかがでしょう。



ちいさな火が、おおきな火に！

広島市南消防署  
警防課 救助係

